

平成29年度大野地区小中連携研修会記録

平成29年8月25日

大野地区小中連携推進協議会

(1) 開会式記録

大野中校長挨拶

- ・長続きする研修会に

・できるところから「そろえて」いきましょう。

各校の実践発表

【市渡小学校】

- ・学校教育目標具現化のため GTS 委員会がある
- ・一日体験入学で「あいさつの仕方 (101・102・103)」を習ったので、市渡小学校の集会でも「そろえて」いる。

【大野中学校】

- ・アクションプランを学校全体で意識している。
- ・小中連携で得た学力に関する様々なデータを指導の参考に使っている。
- ・教員間の小中連携授業交流や、ボランティアサークルによる長期休業中学習会のお手伝いについての紹介。

【大野小学校】

- ・道徳の研究について紹介。教科化にむけて評価の研究を実践している。ルーブリックによる評価について研究している。
- ・児童会各委員会の取組の紹介。

【萩野小学校】

- ・学習や生活を振り返るための「チェックシート」の紹介。
- ・全学年、国語・算数で CRT を実施している。
- ・体力向上のため、本年度より休み時間を長くした。外や体育館で遊んでいる生徒が増えたと実感している。

【島川小学校】

- ・島川小教職員の紹介。
- ・今年度学力向上委員会・体力向上委員会を発足させた。
- ・体力向上のため、休み時間の遊び方のきまりについて変更をした。
- ・小学校で使っている「体力手帳」を中学校でも継続して使っていければいい。

(2) 学力向上部会 分科会 全体まとめ

家庭学習の取り組みについて

- ・ドリルやテスト、調査といった「型」を示し、児童・生徒が自分に合った家庭学習に取り組める工夫をしてはどうか。

- ・「やり方の統一」、「時間の確保」、「習慣化」が課題である。
- ・学校としては「丸つけ」の時間の確保が課題である。

学習規律について

各小学校でそれぞれ行われていることを、一定程度そろえることで、中学校へのスムーズな接続が期待できるので、以下に列挙する

- ・授業準備の中学校方式（各時間前に教科書などの準備）へ
→6年生の3学期に練習してはどうか
- ・筆箱の中身
- ・テストの受け方
- ・チャイム着席の徹底
- ・習字や絵の具など、学習道具の必要な時以外の持ち帰り
- ・敬語の使い方

◎家庭学習と学習規律の統一について、小中で協議していくことに加え、地域へも積極的に発信・周知し、協力を仰ぐ必要がある。

その他

中学校では、特定の生徒ではあるが、学習用具や課題の忘れ物が多い。小学校でも同じ傾向にある。通信や帰りの会などで必要なものを知らせているが、そもそも通信を見て用具を準備する習慣がないのか、同じことを繰り返す。

家庭にも知らせて改善を試みてはいるが、「子どもに任せている」と言う親もいて、難しい場合もある。

部活の道具は忘れないことを考えると、児童・生徒の意識の問題によるので、どう高めていくかが課題である。

(3) 体力向上部会記録

○各校の取組

市渡小学校…H28年度のテスト結果から、準備運動の工夫や、授業改善等に取り組んだ。

準備運動中に走力アップにつながる基礎運動（スクワットやラダなど3分程度行う。）を取り入れる。

体育館に、鉄棒や跳び箱を設置し、体育の時間や休み時間に練習できるようにし、児童の運動への関心を高め運動量を確保する取組を行う。

大野中学校…準備運動前に行う3分間走。記録することで意欲向上へも繋げる。

島川小学校…「なわとびマラソン」を体育授業及び、火・木曜日の中休みに行うこと。

握力計を身近なところに置き、日常的に自分で測れるようにする。

体育館の「ボールを壁にぶつけてはいけない。」という約束を変更し、遊びの中でボールを投げる機会をつくる。

大野小学校…児童会と体育委員会で企画した「朝マラソン」の実施。毎日走った周数を記録する。後期にも企画する予定。

縄跳び週間では全学年体育の時間に3分間跳ぶようにしている。同時に大縄へ取組も行う。

鉄棒週間、跳び箱週間を後期に行う予定。体育館に鉄棒、跳び箱を設置に休み時間もできるようにする。

○「大野地区での体力向上についての9年間を見通した取組」について

- ・大野中学校、市渡小学校で取り組んでいる、3分間走を大野地区で取り組むことはできないだろうかという話にまとまりました。
- ・学習カードを用いて、走った周数を記録することで児童生徒の意欲向上にもつながるのでは。
- ・周数の変化が見てわかることは自分自身の成長への気づきにもつながる。
- ・やらせる（与える）ことも大切ではないか。
- ・走ることを習慣化する。

○その他

- ・中学校から…部活のばらつきがある。
車での登下校が多い。

○まとめ

各校体力向上への取り組みはありましたが、大野地区で揃えていけるとなると、体育の授業前に行う3分間走が妥当ではないかとなりました。大野中学校、市渡小学校ではもうすでに取り組んでいるとなるというベースもあり、繋がりもスムーズになるのではと発表してきました。

(4) 生徒指導部会記録 グループ別

1 グループ

①協議の記録

<各校の実態、取り組み：中学校>

- ・中1ギャップが出ないように、できるだけいねいに指導している。
→学習用具の扱い、生活指導等、基本的には小学校と同様に
- ・チャイム着席…発達段階に合わせて、自発的にできるよう誘導している。
- ・授業中の態度（姿勢、学習用具の扱い等）は、小学校のものを参考にしたい。

<各校の実態、取り組み：小学校>

- ・机に出す学習用具を統一している。
- ・きまりを守る意識が薄いので、意識を高める指導の工夫が必要である。
- ・発達段階に合わせてチャイム着席の指導をしているが、教師側も授業終了を遅らせないように気をつけなければならない。
- ・まずは学校の中で「そろえる」ことを推進している。（あいさつ、礼等）

②9年間を見通して、共通で取り組める内容について

- ・時間を守る…チャイム着席
- ・学習用具の準備、取り扱い…家庭との連携も含めて
- ・携帯電話の取り扱い…電話を持たせる前に保護者と子どもの間で約束事をつくる、保護者間で連携をとる等のことを小学校入学説明会や懇談会で啓蒙を。
- ・安全指導…自転車乗車等

2 グループ

①協議の記録

- ・言葉づかい（上級生への）…指導の難しさ、保護者との連携
- ・床に物を置くことはどんなものか
- ・学習準備…低学年で身につけておくことが大切

②9年間を見通して、共通で取り組める内容について

- 重点的に取り組み、学年に応じて積み重ねていく。
 - ・チャイム着席
 - ・礼の仕方
 - ・机の上の学習用具の置き方は、発達段階に応じて。

3 グループ

①協議の記録

○何のために「きまり」をつくって取り組むのか

・小・中それぞれの実態をふまえて「何のためにするのか」

・小→中へスムーズに移行できるように（中1ギャップ）

（心構えや取り組みの基本を育てるため）

・なかなかきまり・ルールを守れない、定着しない→その都度注意、指導

○小中連携を生かして 中→小へ出前授業 生徒指導にも活用できる

②9年間を見通して、共通で取り組める内容について

○発達段階に応じた指導…年齢が下なほど（小 低学年）、ある程度の枠（きまり）は各場面必要である。

（5）閉会式記録

助言者より

【大澤指導主事】

・見せる、可視化、継続、徹底がキーワードの研修会であった。

・今回の研修会は、大野中学校区 64 名のチームワークを作ったし、ネットワークづくりにもなった。

・分科会で「連携のすべてが大野地区の子どものために」という

言葉が印象的だった。 教育長にも報告する。

【細川指導主事】

・議会で小規模校のことが議題になった。

・中 1 ギャップは複雑である。起立性調節障害と診断される子どもが多いのは精神的なプレッシャーのためか。小中連携の大きな目標は「ギャップを取り除く」こと。

・学力向上分科会で「大野中で困っていること」から話が進んだ。

大野地区の子どもはすべて大野中に通学するわけだから、大野

中を基にして小中の接続を考えるのが大切である。

- ・小中連携の特別支援教育の引継ぎについて話題に入れてほしい。

大野小学校長挨拶

- ・ 教育課程の接続も教科によってはできるのではないか。
- ・ まずはできるところから取り組み、中学校 1 年生が小学校 7 年生という意識を持つことが大切である。